

【概要版】

県立高等学校再編将来構想（案）

～中学校卒業生数の急減期を見据えた県立高等学校の一層の魅力化・特色化と再編～

1 構想の概要

（1）策定の趣旨

高等学校全日制課程への進学率の低下や県立高等学校における全県的な欠員の急増など、県立高等学校を取り巻く環境が大きく変化している。また、今後、中学校卒業生数は、2035年度までに、2022年度入学者選抜時と比べて13,000人程度減少し、現在の7万人から5万7千人程度になることが見込まれる。こうした厳しい状況を踏まえ、県立高等学校の役割を改めて見直しながら、2030年代半ばを見据えた全県的な県立高等学校の再編将来構想を策定する。

（2）構想の期間

2022年度から2035年度まで

（3）構想の構成

- ・ 県立高等学校再編将来構想の基本的な考え方 → 本冊：1ページ参照
構想の趣旨、構想の策定経過、構想の位置付け、構想の具体化に向けた今後の取組、構想の実施期間
- ・ 第1章 県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編の方向性
→ 本冊：2ページから5ページ参照
高校の一層の魅力化・特色化、再編の5つのポイント、再編の進め方
- ・ 第2章 中学生の進路選択の変化、県立高等学校の現状と課題
→ 本冊：6ページから67ページ参照
中学校卒業生数の大幅な減少、中学生の進路選択の多様化、各学科等の現状と課題、各地域の現状と課題
- ・ 第3章 2023年度に実施する県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編の内容（2021年度発表分） → 本冊：68ページから76ページ参照
学校の再編・統合、時代の変化・地域の課題に対応した新たなタイプの学校、経済社会とリンクした商業教育へのリニューアル
- ・ 今後の取組について → 本冊：77ページ参照
検討委員会の意見や関係者の意見を踏まえ、順次、具体化を検討

（4）構想の具体化に向けた今後の取組

この構想は、2030年代半ばを見据えた今後の魅力化・特色化、再編の将来的な取組の方向をまとめたものである。今後、県立高等学校を取り巻く状況は急速に変化していくことが予想されることから、取組の方向は、状況の変化に応じて常に見直していく。特に、学科改編については、各地域における生徒募集の状況や経済、社会の変化も十分に踏まえながら、具体化を検討する。

2 県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編の方向性について

(1) 魅力化・特色化、再編の5つのポイント

ポイント1：中学生が学びたいと思える学校づくりをすすめる

学科改編、新たな時代にふさわしい校名変更、入試制度改革 等

ポイント2：生徒が主体的に学べる学校づくりをすすめる

探究的、実践的な教育への変革、単位制の積極的な導入、夜間定時制の在り方の検討、昼間定時制や通信制サテライト教室の設置、少人数指導の導入 等

ポイント3：時代の変化に応じた、新しいタイプの学校づくりをすすめる

新しい普通科の枠組への改編、産業構造の変化に迅速に対応した専門学科のリニューアル、ICTを活用した遠隔授業の導入 等

ポイント4：地域の期待に応える学校づくりをすすめる

地域における各校の役割を踏まえた魅力化・特色化、再編

ポイント5：外部の専門機関と連携した、持続可能な教育体制を構築する

大学、企業、NPOなど、外部の専門機関との連携した取組 等

(2) 学校の再編・統合の考え方

ア 再編の考え方

今後の中学校卒業生数の減少を踏まえると、現状の学校数では、全県的に学校規模が小規模化して、1校当たりの生徒数や教員数が減少し、教育活動に支障を来す恐れがある。そこで、地域ごとの中学校卒業生数の推移や中学生の進路動向等を総合的に勘案し、統合等による再編を進めていく。

イ 再編のスケジュール

中学校卒業生数の推移や中学生の進路状況は地域ごとに異なり、小規模化の進捗や将来的な見込みも一律ではないことから、再編対象校は、適切な時期にその都度、決定し公表する。

ウ 再編の方法

地域における各校各学科の役割を踏まえつつ、前例にとらわれない、幅広い発想で再編を検討し、進めていく。

エ 山間部、中山間部、半島部など、地域の拠点としての高等学校の在り方

生徒が自宅から通学可能な高校に限られるとともに、高校の存在は、持続可能な地域づくりとして重要な要となっている。このため、地域における学校の役割について、地元自治体などの関係者と継続的に協議し、地域とともに魅力ある学校づくりを協働して進めていく。

オ 県と市町村による高等学校の在り方に関する協議

今後の少子化や高校の小規模化の状況に合わせて、地域の高校の在り方について、県と地域の市町村等関係者で協議する場を設ける。

3 2023年度に実施する県立高等学校一層の魅力化・特色化、再編の内容（2021年度発表分）について

(1) 学校の再編・統合

ア 稲沢・一宮地区における統合

稲沢高等学校・稲沢東高等学校・尾西高等学校を統合し、農業科と普通科の生徒が相互に学ぶことができ、進学から就職まで、幅広い進路ニーズを実現する、新たな学校を、稲沢高等学校校地に開校する。

現 在	新 校（2023年度開校）
稲沢高等学校 農業科（4） （稲沢市）	想定学科：農業科（4）・普通科（3） 総合選択制（※）を実施 ※互いの学科の科目を一部履修可能とするもの 校地：稲沢高等学校
稲沢東高等学校 普通科（3） （稲沢市）	
尾西高等学校 普通科（3） （一宮市）	

※括弧内は想定学級数

<スケジュール>

2023年度に3校を統合し、新校を開校する。

学校名	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
稲 沢	1, 2, 3年	2, 3年	3年	—
新 校	—	1年	1, 2年	1, 2, 3年
稲沢東	1, 2, 3年	2, 3年	3年	—
尾 西	1, 2, 3年	2, 3年	3年	—

イ 津島・弥富地区における統合

津島北高等学校と海翔高等学校を統合し、普通科・商業科・福祉科を併置した新たな学校を、津島北高等学校校地に開校する。

現 在		新 校（2025 年度開校）
津島北高等学校 （津島市）	普通科（2） 商業科（3）	想定学科：普通科（2）・商業科（3）・福祉科（1） 利用校地：津島北高等学校
海翔高等学校 （弥富市）	普通科（2） 福祉科（1）	

※括弧内は想定学級数

<スケジュール>

2025 年度に 2 校を統合し、新校を開校する。

福祉科は、実習施設の整備が必要なため、整備完了まで（2024 年度(予定)）は、海翔高等学校で募集を継続する。整備完了後（2025 年度(予定)）は、津島北高等学校で福祉科の募集を開始する。同時に海翔高等学校福祉科の生徒は、津島北高等学校へ移る。（具体的な移行手順は、今後調整していく）

学校名	学科名	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
津島北	普通科	1, 2, 3 年			
	商業科	1, 2, 3 年			
	福祉科	—	—	—	1, 2, 3 年
海 翔	普通科	1, 2, 3 年	2, 3 年	3 年	—
	福祉科	1, 2, 3 年	1, 2, 3 年	1, 2, 3 年	—

(2) 時代の変化・地域課題に対応した新たなタイプの学校の設置

ア 犬山南高等学校（現行：普通科5学級）（犬山市）

「デジタル社会に必要なDX人材育成」と「地域の課題解決や新たな産業や会社の在り方を考え企画・実践できる起業家的人材育成」を柱とした、「生徒の新たなチャレンジを全面的に支える学校」を目指す。生徒が「分かる楽しさ・できる喜び」を体感できるよう、少人数教育を導入し、生徒の基礎・基本の定着や学び直しを支援する。新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託を進める。

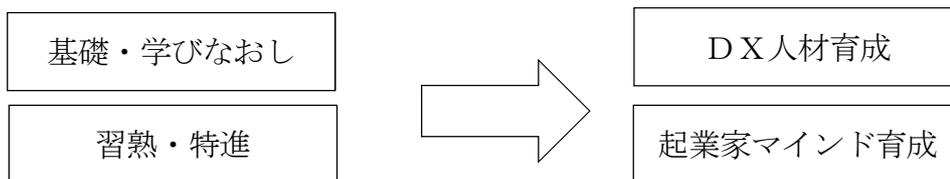
2022年度 構想の具体化、準備

2023年度 校名変更・学科改編

<新しい学校のイメージ>

全日制 新たな学科（検討中）（5学級または4学級を想定）

【1年次】 どちらかのクラスを選択 【2年次】 どちらかのコースを選択



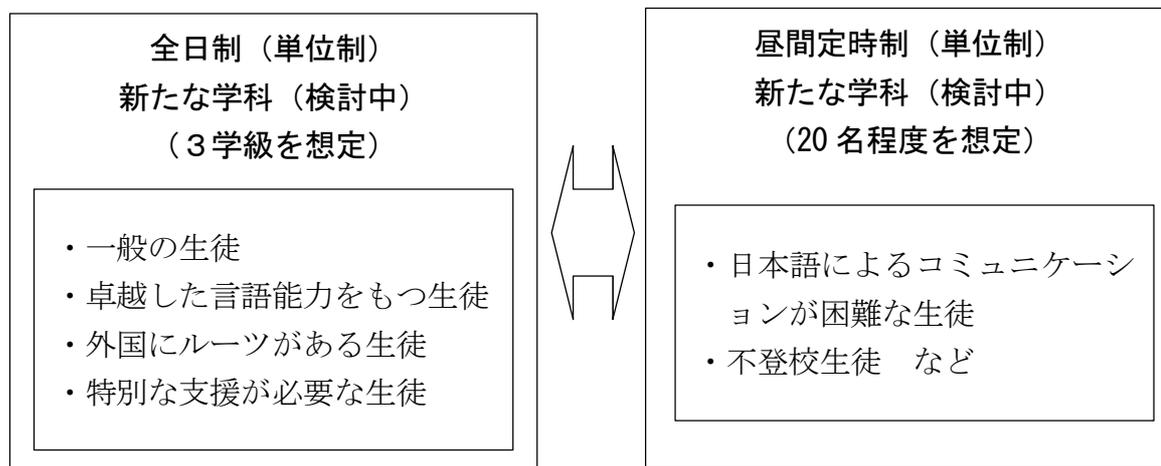
イ 御津高等学校（現行：普通科2学級・国際教養科1学級） （豊川市）

国際教養科の多様性を尊重する教育を継承し、外国にルーツのある生徒や特別な支援が必要な生徒など、多様な生徒を受け入れるインクルーシブな学校を目指す。日本語習得や不登校の状況に応じたきめ細かな指導を行うため、少人数教育を導入するとともに、全日制課程学年制から全日制単位制への改編と、昼間定時制課程の併置を行う。新たな学校の運営を支える民間企業、地元自治体との連携・外部委託を進める。

2022年度 構想の具体化、準備

2023年度：校名変更・学科改編・昼間定時制の併置

<新しい学校のイメージ>



(3) 経済社会とリンクした実践的な商業教育へのリニューアル

商業科の生徒は、卒業後の進路として、半数以上が、様々な業種の企業やIT企業への就職、約4分の1が専門学校への進学と、多くの生徒が早い段階で就職を目指している。こうした生徒の進路状況を踏まえながら、地元企業が求める「ビジネス現場で主体的に行動できる人材」の育成を図るため、教育内容の見直しを行う。

また、大学での専門分野の探究や、専門学校での高度な資格取得を目指す生徒のための対応を充実する。

さらに、中学生に対する商業高校のイメージアップを図る。

ア 今後の取組の方向

(ア) 企業が求める人材育成を取り入れた実践的な学びへ変革

- ・地域創生やSDGsの視点をもった探究的学習、ケースメソッドによる考察、クラウドファンディングの活用、ビジネスプランコンテストへの参加などを実践する。
- ・1人1台タブレットを校内外での調べ学習やまとめ、意見交換、発表などで活用する。さらに、プレゼンテーションルームを活用して、学校同士や企業と協働したオンライン学習を実践する。
- ・企業等との連携協定の締結により、インターンシップを拡充するとともに、アルバイトや有償インターンを活用しながら雇用の拡大を目指す。
- ・商業で学ぶべき3大言語として会計言語、プログラミング言語、外国語（英語に加え中国語などアジアの言語等）の教育を実践する。
- ・企業で取り入れられているオフィスカジュアルを実践する取組を行う。

(イ) 大学や専門学校へ進学を目指す生徒への対応を充実

- ・大学や専門学校と連携した相互交流実践を推進するとともに、商業の学びを生かした特別選抜制度の構築により進学を実現する。
- ・オンライン授業の活用により、ビジネスで役立つ上級資格が取得できる体制を構築する。
- ・大学や専門学校と、県教育委員会や学校の連携協定を締結するなど、連携を促進する。

(ウ) 中学生に向けた学校のイメージアップ

- ・実践的な商業教育の一環として、地域、同窓生、生徒・保護者等の意見も取り入れながら、校名、制服の見直しなどを検討する。

イ 学科改編

2023年度に、各校の特性に応じた学科へ改編する。

また、商業高校の新しいイメージを打ち出すため、校名変更についても幅広く検討する。校名変更を行う学校については、2022年夏頃までに公表する。

※東海商業高等学校の学科改編、校名変更は、2021年7月7日に発表済

タイプ	学校名	学科改編後
商業教育の中核校として高度な専門性を身に付ける学校	愛知商業	○ITビジネス科 効率的な業務システム開発や効果的なWeb制作などを学習。
	岡崎商業	○グローバルビジネス科 外国語やビジネス法規など、海外取引に関して専門的に学習。
	豊橋商業	○会計ビジネス科 企業会計の法規や会計処理など、会計分野を専門的に学習。
地域における活動を通じた探究的な学びを推進する地域密着型の学校	一宮商業	○ITビジネス科（再掲） 効率的な業務システム開発や効果的なWeb制作などを学習。 ○地域ビジネス科 地元と協働した実践的な取組を通して、地域活性化やSDGsについて学習。 ※春日井商業は、2023年度に生活文化科を併設予定
	半田商業	
	春日井商業	
	古知野 (他学科併置)	
高度な情報技術を身に付けたデジタル人材を育成する学校	津島北 (他学科併置)	
	東海樟風 (2022年4月東海商業から校名変更)	○総合情報科 STEAMに重点を置いた取組を通して、ビジネス、ITスキルについて学習。 ※2021年7月7日発表済
就職を目標として、ビジネスの基礎からきめ細かに学習する学校	中川商業	○キャリアビジネス科 職業人として必要なビジネスの基礎・基本を学習。 ※本県初の職業学科全日制単位制

※STEAM: Science、Technology、Engineering、Arts、Mathematics 等の各教科での学習を実社会での課題解決に生かしていくための教科横断的な教育

(参考) 商業高校の学科改編

現 行 (2021 年 4 月)		
学校名	設置学科(学級数)	
	商業科	他の併置学科
愛知商業 (名古屋市)	情報処理科(2) 経理科(2) 国際ビジネス科(2) 事務科(1)	
岡崎商業 (岡崎市)	情報処理科(2) 情報会計科(2) 国際ビジネス科(2) 総合ビジネス科(1)	
豊橋商業 (豊橋市)	情報処理科(2) 経理科(2) 国際ビジネス科(1) 総合ビジネス科(1)	
一宮商業 (一宮市)	情報処理科(2) 経理科(2) 国際ビジネス科(2)	
半田商業 (半田市)	情報処理科(2) 経理科(2) 総合ビジネス科(2)	
春日井商業 (春日井市)	情報処理科(2) 経理科(2) 国際ビジネス科(2)	
古知野 (江南市)	情報処理科(2) 総合ビジネス科(2)	生活文化科(1) 福祉科(1)
津島北 (津島市)	総合ビジネス科(3)	普通科(2)
東海樟風 (東海市) (2022年4月 東海商業から 校名変更)	情報科(3) 総合ビジネス科(3)	
中川商業 (名古屋市)	情報処理科(2) 国際ビジネス科(2) 総合ビジネス科(2)	



改編後(2023年4月)	
設置学科(想定学級数)	
商業科	他の併置学科
ITビジネス科(2) グローバルビジネス科(3) 会計ビジネス科(2)	
ITビジネス科(2) グローバルビジネス科(3) 会計ビジネス科(2)	
ITビジネス科(2) グローバルビジネス科(2) 会計ビジネス科(2)	
ITビジネス科(2) 地域ビジネス科(4)	
ITビジネス科(2) 地域ビジネス科(4)	
ITビジネス科(2) 地域ビジネス科(3)	生活文化科(1)
ITビジネス科(1) 地域ビジネス科(3)	生活文化科(1) 福祉科(1)
ITビジネス科(1) 地域ビジネス科(2)	普通科(2)
総合情報科(6)	
キャリアビジネス科(5)	

4 今後の取組について

構想を策定するに当たり、検討委員会の委員を始め、各県立高等学校長、市町村・地域の関係者から、今後の中長期的な県立高等学校の魅力化、特色化、再編に関する取組の方向について、数多くの意見や提案をいただいた。

＜今後の取組に関する検討委員会、学校等からの意見・提案項目＞

- ・ 中学生向けの高校の魅力発信に関する事
- ・ 再編に関する基本的な方向性に関する事
- ・ 学校間の連携教育に関する事
- ・ 地域連携に関する事
- ・ 企業等外部機関との連携に関する事
- ・ 大学・専門学校との連携に関する事
- ・ 小・中・高連携教育に関する事
- ・ 定時制、通信制、全日制単位制に関する事
- ・ 外国にルーツをもつ生徒の教育に関する事
- ・ 特別な支援を必要とする生徒に関する事
- ・ 少人数教育に関する事
- ・ 施設設備、予算の確保に関する事
- ・ 人材の確保、組織体制、学校運営に関する事
- ・ 生徒募集計画に関する事
- ・ 入試制度に関する事
- ・ 部活動、課外活動に関する事
- ・ 各学科（普通科、農業科・水産科・林業科、工業科、商業科、家庭科・看護科・福祉科、総合学科）に関する事

その内容は、すぐに実現可能なものから、今後の検討や研究が必要なもの、アイデアレベルのものまで、様々なものとなっているが、その全ては、それぞれの立場で、これまで積み上げてこられた教育活動や経験の中から提起された貴重なものであった。

これらの県立高等学校のさらなる飛躍への願いが込められた意見、提案を踏まえながら、来年度以降も継続的に、県立高等学校の一層の魅力化・特色化、再編に向けた具体的な取組を検討し、順次、公表していく。そして、県民の負託にこたえる高等学校づくりを実現してまいりたい。